

投馬国と邪馬台国

九州歴史資料館長・海の道むなかた館長

西谷 正

I はじめに

倭人伝に見える投馬国

II 投馬国の位置をめぐる諸説

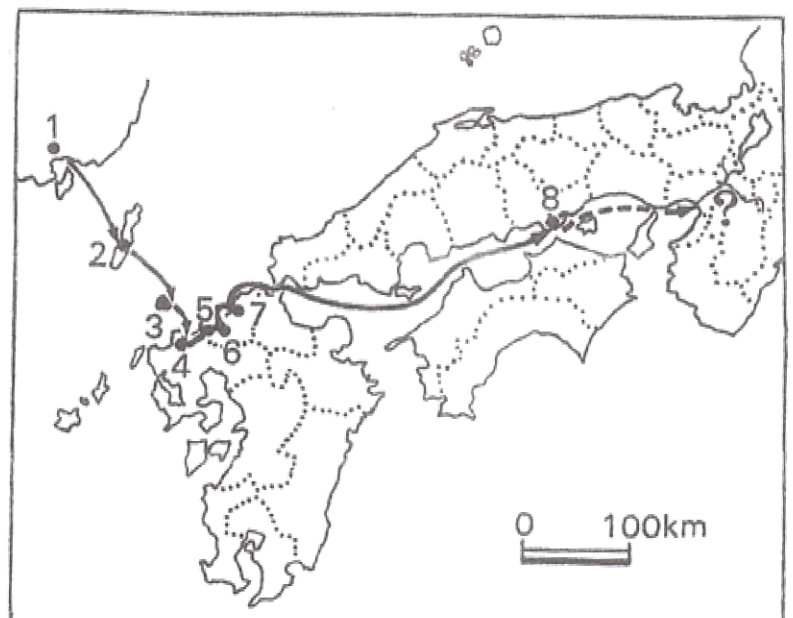
III 投馬国吉備地方説

- (1) 弥生時代の遺跡 — 岡山県倉敷市・上東遺跡
- (2) 銅鐸・貨泉の発見例 — 高塚遺跡
- (3) 楯築弥生墳丘墓

IV 吉備地方における初期前方後円墳

矢部大^{くら}丸古墳

V おわりに



邪馬台国への道 (1. 狗邪韓国, 2. 対馬国
3. 一支国, 4. 末盧国, 5. 伊弉国, 6. 奴国, 7.
不弥国, 8. 投馬国)

南至投馬國水行二十
日官曰彌彌副曰彌彌那
利可五萬餘戶

南、投馬國に至るには、水行二十日。官を彌
彌といひ、副を彌彌那利といふ。五万余戸ば
かりあり。

(1) 投馬国九州説

- 肥後国玉名郡・託麻郡 (新井白石『外国之事調書』)
- 肥後国益城郡当麻郷 (藤井甚太郎『邪馬台国の所在に就て』)
- 日向国児湯郡妻 (都万) (本居宣長『馭戎慨言』)
- 筑後国三潞郡、下妻・上妻郡 (白鳥庫吉『卑弥呼問題の解決』)
- 薩摩国薩摩郡 (吉田東伍『日韓古史断』)
- 大分県日田郡五馬(富来隆『魏志「邪馬台」の新考察』)
- 豊の国 (豊前・豊後) (村上義男『邪馬台国と金印』)

(2) 投馬国瀬戸内沿岸説

- 備後国沼隈郡鞆 (新井白石『古史通或問』)
- 播磨国須磨 (新井白石『古史通或問』)
- 周防国佐婆郡玉祖郷(内藤虎次郎『卑弥呼考』)
- 岡山県玉野市玉・倉敷市玉島・岡山市
(青木慶一『邪馬台の美姫』、大山峻峰『周旋五千里の国 邪馬台国を探る』)

(3) 投馬国日本海沿岸説

- 出雲 (笠井新也『邪馬台国は大和である』)
- 但馬 (山田孝雄『狗奴国考 古代東国文化の中心』)

(4) 投馬国は西都市妻付近

- 小林幹男 1985「投馬国 南水行すること二十日 女王国第二番目の大国」
『歴史と旅』第12巻第1号 秋田書店



遺跡位置図



- | | | | | |
|-----------|----------------|-------------|-----------------|------------|
| 1 上東遺跡1 | 16 東栗坂土器址 | 31 若宮神社東遺跡 | 46 矢部庵寺址 | 60 日幡城址 |
| 2 下庄遺跡 | 17 東栗坂2号墳 | 32 山地遺跡 | 47 矢部寺田遺跡 | 61 法伝山古墳 |
| 3 上東遺跡2 | 18 新屋敷古墳 | 33 猪巻池北遺跡 | 48 矢部遺跡 | 62 橋巻跡生墳丘墓 |
| 4 荒神古墳 | 19 矢尾神社遺跡 | 34 伊能軒遺跡 | 49 鯉喰神社跡生墳丘墓 | 63 西の平古墳 |
| 5 岩倉遺跡 | 20 西栗坂1・2号墳 | 35 矢部古墳群A | 50 矢部南向遺跡 | 64 半依3号墳 |
| 6 才楽遺跡 | 21 松島城址 | 36 矢部古墳群B | 51 加茂B遺跡 | 65 女男岩遺跡 |
| 7 柿梨堂遺跡 | 22 舟渡貝塚 | 37 矢部大坑古墳 | 52 惣爪廃寺址 | 66 辻山田遺跡 |
| 8 川入遺跡 | 23 才古山古墳1・2号墳 | 38 矢部貝塚 | 53 足守川矢部南向遺跡 | 67 大池上古墳群 |
| 9 撫川城址 | 24 二子高鳥居山古墳群 | 39 矢部奥田遺跡 | 54 東惣爪遺跡 (高田遺跡) | 68 真宮古墳群 |
| 10 鹿瀬城址 | 25 砂原南遺跡 | 40 矢部大山谷古墳群 | 55 吉野口遺跡 | 69 西尾貝塚 |
| 11 大内田貝塚 | 26 砂原北遺跡 | 41 江田古墳群 | 56 賀陽氏歴館址 | 70 赤井南古墳群 |
| 12 坪井北遺跡 | 27 御堂奥、岩部奥地東遺跡 | 42 矢部掘越遺跡 | 57 東山遺跡 | 71 日畑廃寺址 |
| 13 奥坂遺跡 | 28 二子御堂奥窟址群 | 43 郷境墳墓群 | 58 新邸遺跡 | 72 王藤山古墳 |
| 14 天神坂遺跡 | 29 二子14号墳 | 44 前池内遺跡 | 59 藤の木遺跡 | |
| 15 東栗坂1号墳 | 30 二子古墳群 | 45 高坪古墳 | | |

遺跡分布図 (1/25,000)

国土院教育委員会, 2001 『上東遺跡』 『国土院埋蔵文化財調査報告』 158

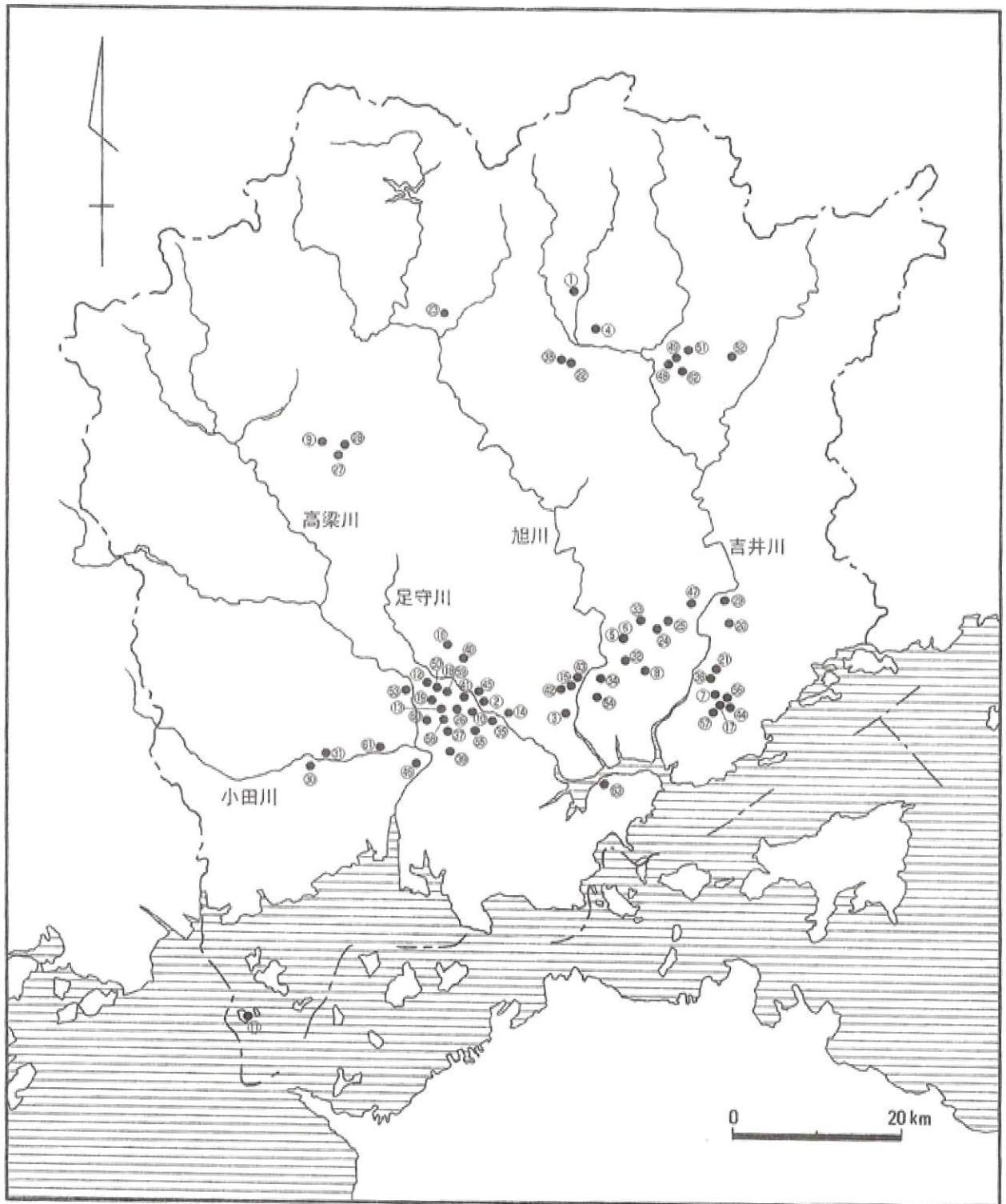


周辺遺跡分布図 (1/50,000)

岡山県古代吉備文化財センター, 2000 『高塚遺跡 三手遺跡, 2』 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』 150

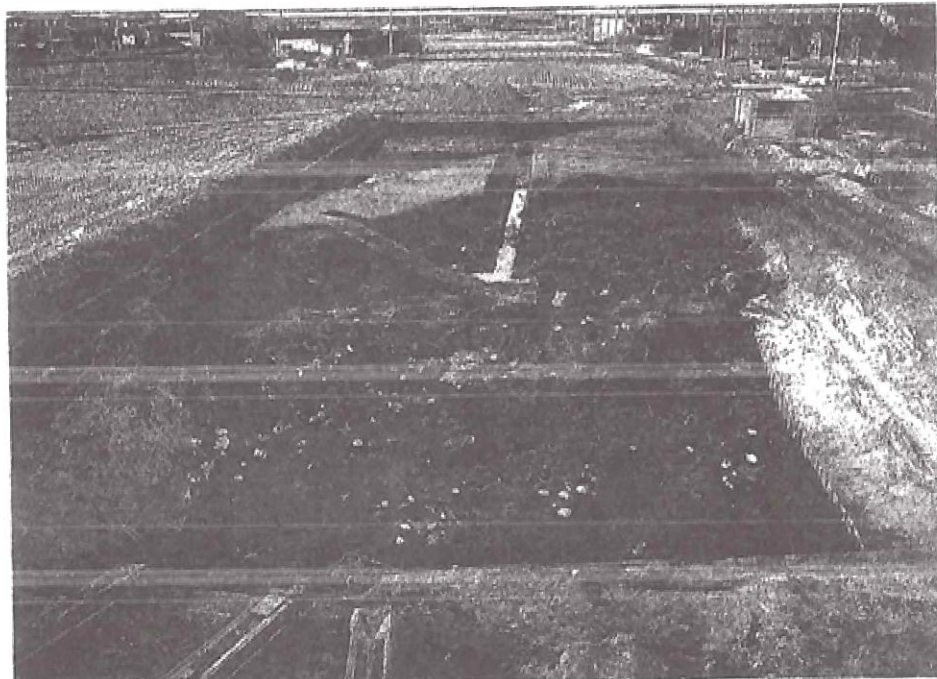
- 1 高塚遺跡 2 三手遺跡 3 津寺遺跡 4 加茂政所遺跡 5 高松原古才遺跡 6 立田遺跡
 7 甫崎天神山遺跡 8 前池内遺跡・雲山遺跡ほか 9 足守川矢部南向遺跡・加茂A・B遺跡
 10 加茂城跡 11 高田遺跡 12 惣爪廃寺 13 鯉喰神社弥生墳丘墓 14 矢部廃寺
 15 矢部貝塚 16 楯築弥生墳丘墓 17 日畑廃寺 18 日畑城跡 19 王墓山古墳群
 20 女男岩弥生墳丘墓・辻山田遺跡 21 上東遺跡 22 鬼城山山城
 23 千引かなくろ谷遺跡・千引遺跡 24 くもんめふ窯跡 25 随庵古墳 26 冠山城跡
 27 南坂遺跡・南坂古墳群 28 上土田古墳群 29 大崎古墳群 30 大崎廃寺
 31 備中高松城跡 32 小盛山古墳 33 佐古田堂山古墳 34 金黒池東遺跡ほか
 35 奥ヶ谷窯跡 36 中山遺跡・中山古墳群 37 小寺古墳群ほか 38 西山遺跡・西山古墳群
 39 西山26号墳 40 南溝手遺跡・窪木遺跡 41 備中国府推定地 42 栢寺廃寺
 43 金井戸・見延遺跡ほか 44 真壁遺跡 45 三須廃寺 46 三須河原遺跡ほか
 47 緑山古墳群 48 窪木薬師遺跡 49 折敷山古墳 50 小造山古墳 51 法蓮古墳群
 52 峠古墳群 53 福山城跡 54 作山古墳 55 角力取山古墳 56 江崎古墳 57 備中国分寺
 58 こうもり塚古墳 59 備中国分尼寺 60 宿寺山古墳 61 前山遺跡 62 狸岩山古墳群
 63 菅生小学校裏山遺跡 64 末ノ奥窯跡群 65 造山古墳 66 榊山古墳 67 千足古墳
 68 日差山城跡 69 日差廃寺 70 二子御堂廃寺 71 二子14号墳 72 二子御堂奥窯跡群
 73 若宮神社東遺跡ほか





- ① 赤峪古墳 ② 足守川加茂A・B遺跡 ③ 天瀬遺跡 ④ 有本遺跡 ⑤ 岩田6号墳 ⑥ 岩田14号墳 ⑦ 牛文茶臼山古墳
 ⑧ 大廻小廻山城 ⑨ 大谷1号墳 ⑩ 王墓山古墳 ⑪ 大飛鳥祭祀遺跡 ⑫ 奥ヶ谷窯跡 ⑬ 栢寺廃寺 ⑭ 川入・中撫川遺跡
 ⑮ 北方横田遺跡 ⑯ 鬼ノ城(鬼城山) ⑰ 金鶏塚古墳 ⑱ 窪木遺跡 ⑲ 窪木築師遺跡 ⑳ 熊山遺跡 ㉑ 花光寺山古墳
 ㉒ コウデン2号墳 ㉓ 五反廃寺 ㉔ 斎富遺跡 ㉕ 斎富2号墳 ㉖ 神山古墳 ㉗ 定東塚・西塚古墳 ㉘ 定北古墳 ㉙ 猿喰池
 製鉄遺跡 ㉚ 清水谷遺跡 ㉛ 下道氏墓 ㉜ 朱千駄古墳 ㉝ 正崎2号墳 ㉞ 貫田廃寺 ㉟ 上東遺跡 ㊱ 新庄天神山古墳
 ㊲ 末ノ奥窯跡 ㊳ 椋山4号墳 ㊴ 菅生小学校裏山遺跡 ㊵ 千引カク口谷製鉄遺跡 ㊶ 高塚遺跡 ㊷ 津島遺跡 ㊸ 津島江道
 遺跡 ㊹ 築山古墳 ㊺ 津寺遺跡 ㊻ 天狗山古墳 ㊼ 土井遺跡 ㊽ 長畝山2号墳 ㊾ 長畝山北4号墳 ㊿ 中山6号墳
 ㊱ 西古田北1号墳 ㊲ 畑ノ平古墳群 ㊳ 秦廃寺 ㊴ 百間川原尾島遺跡 ㊵ 二子14号墳 ㊶ 本坊山古墳 ㊷ 水落古墳
 ㊸ 緑山17号墳 ㊹ 南清手遺跡 ㊺ 宮山墳墓群 ㊻ 箭田廃寺 ㊼ 柳谷古墳 ㊽ 八幡大塚2号墳

(岡山県立博物館、2005『吉備の渡来文化—渡り来人の口と文化—』)



波止場状遺構 上東遺跡 岡山県古代吉備文化財センター提供

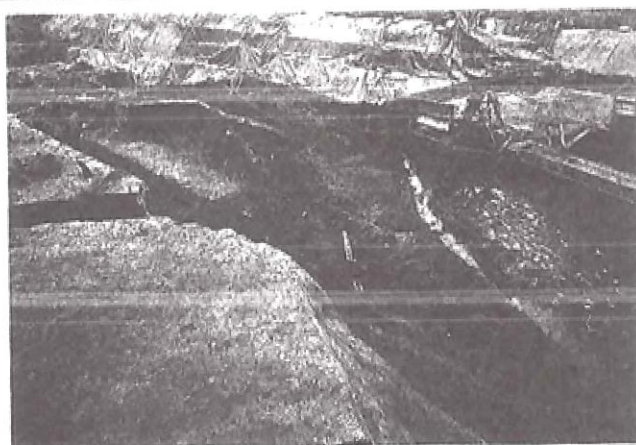
注目されるのがその構築技法で、土を層状に盛り上げ、木葉を敷きつめ、さらに土を盛り上げる、敷葉工法が用いられている。そして、縁辺には大量の杭を打ち込み、崩落を防いでいる。こうした技術は、当時の日本列島では極めて珍しく、その構築にあたり渡来した技術者が関与した可能性もある。

■ 発見された弥生時代の港

周囲を海に囲まれた日本列島では、海は障壁であると同時に物流の大動脈であった。そのため、古くから、航路にあたる各地の要所に港がつけられたと思われる。

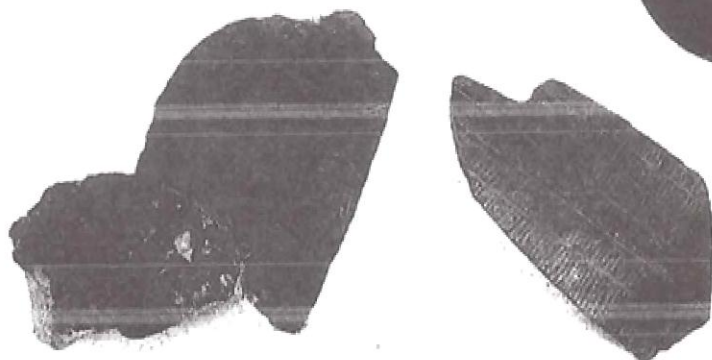
上東遺跡では、全国2例目となる、弥生時代の港と考えられる波止場状遺構が発見された。

推定される規模は、最大幅約14m・長さは45m以上で、当時は瀬戸内海に面し、海上交易の窓口として重要な役割を果たしていたと考えられる。



波止場状遺構 内部の杭列

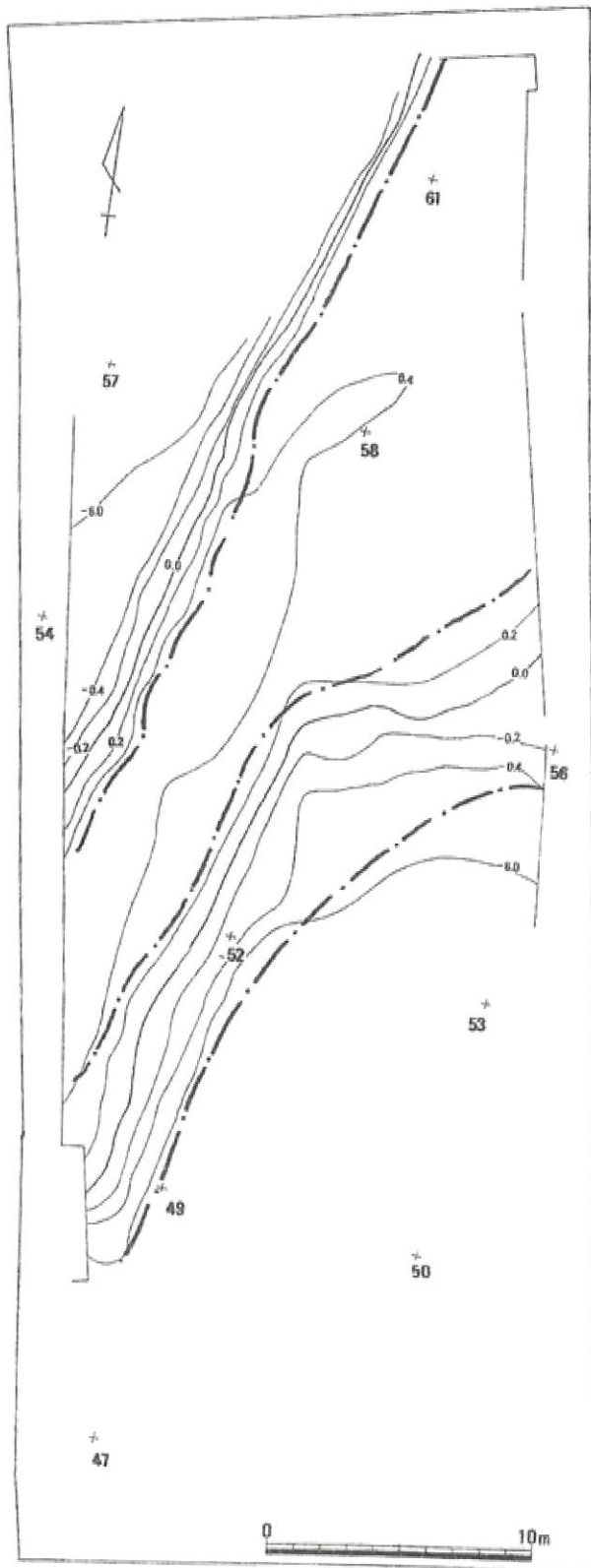
上東遺跡
岡山県古代吉備文化財センター提供



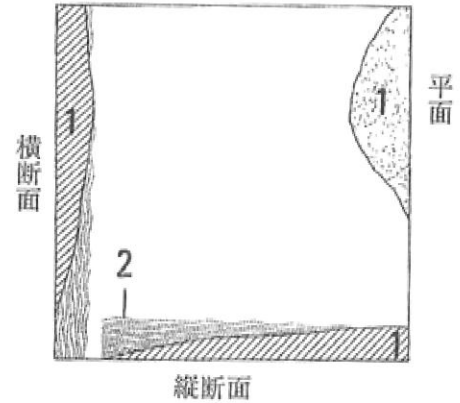
上東遺跡出土品

- (上) 意図的に穴がけられた土器
- (中) 貨泉
- (下) 瓦質土器

この波止場状遺構からは、700点以上の弥生土器が出土している。多くは完形で、意図的に穴をあけたものもあり、航海の安全を願って海の神に捧げたものと思われる。特筆されるのが、中国(新)製の貨泉と、朝鮮半島製の瓦質土器の出土で、ここが国際交易の窓口であったことを示している。



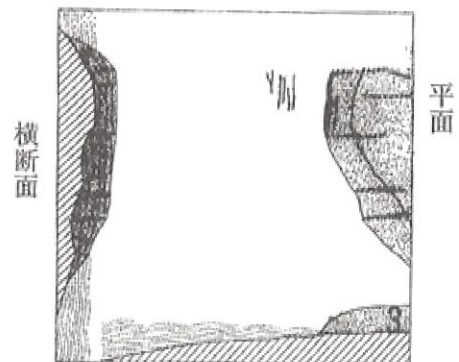
波止場状遺構図



縦断面

A

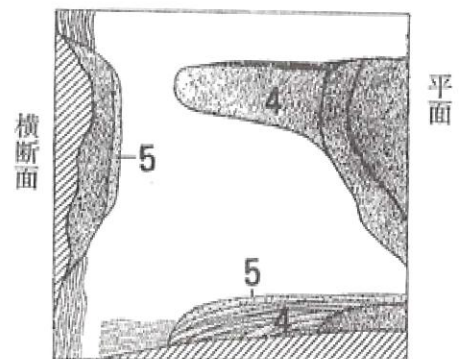
- 1 暗灰色粘質土 (基盤層)
- 2 海面



縦断面

B

- 3 第I工区盛り土



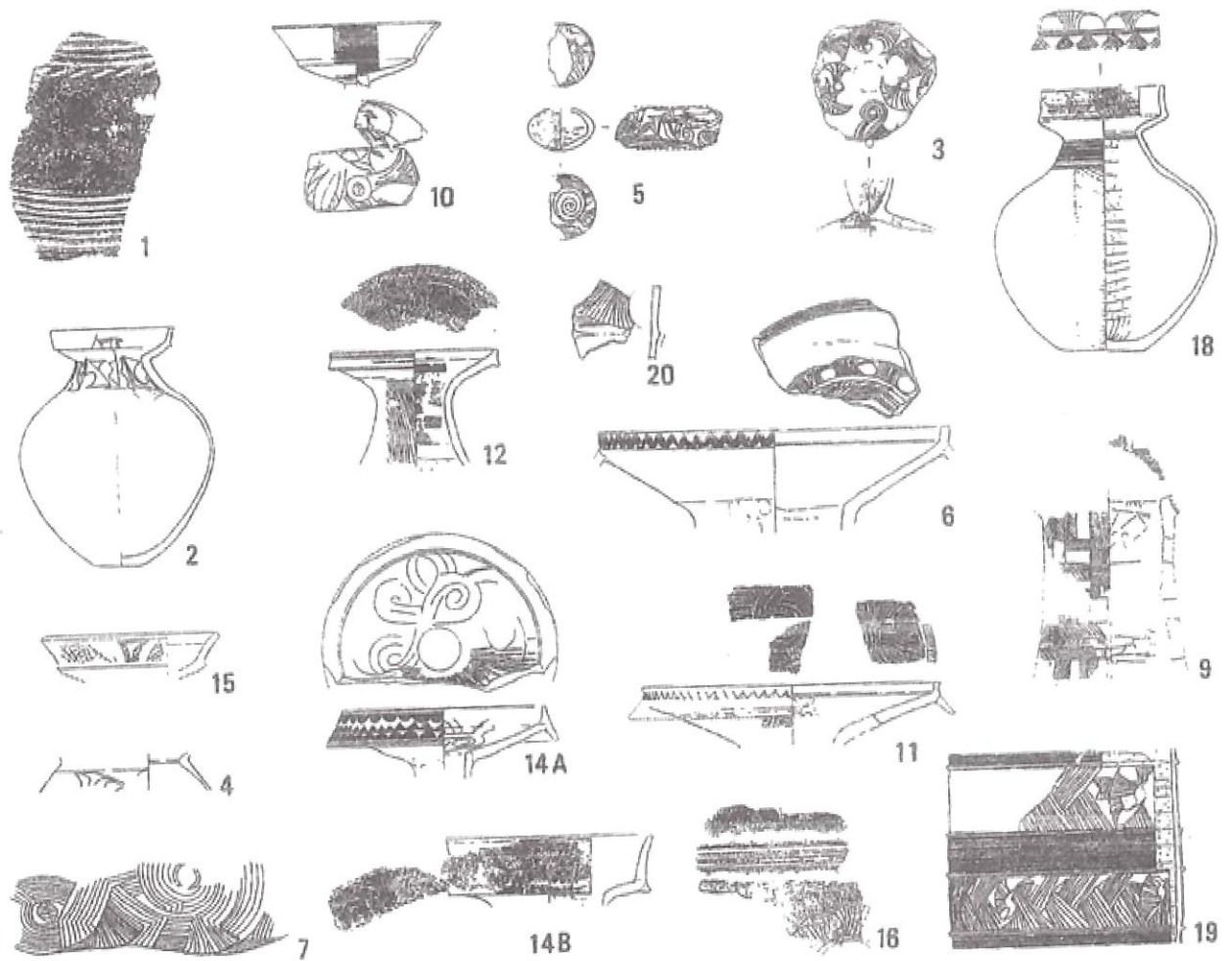
縦断面

C

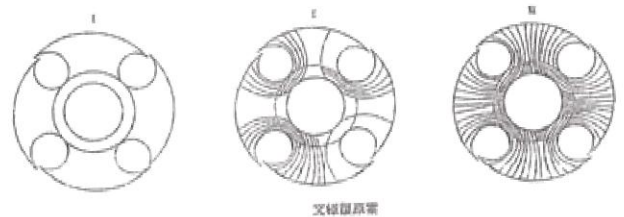
- 4 第II工区盛り土
- 5 最上面盛り土

造成模式図

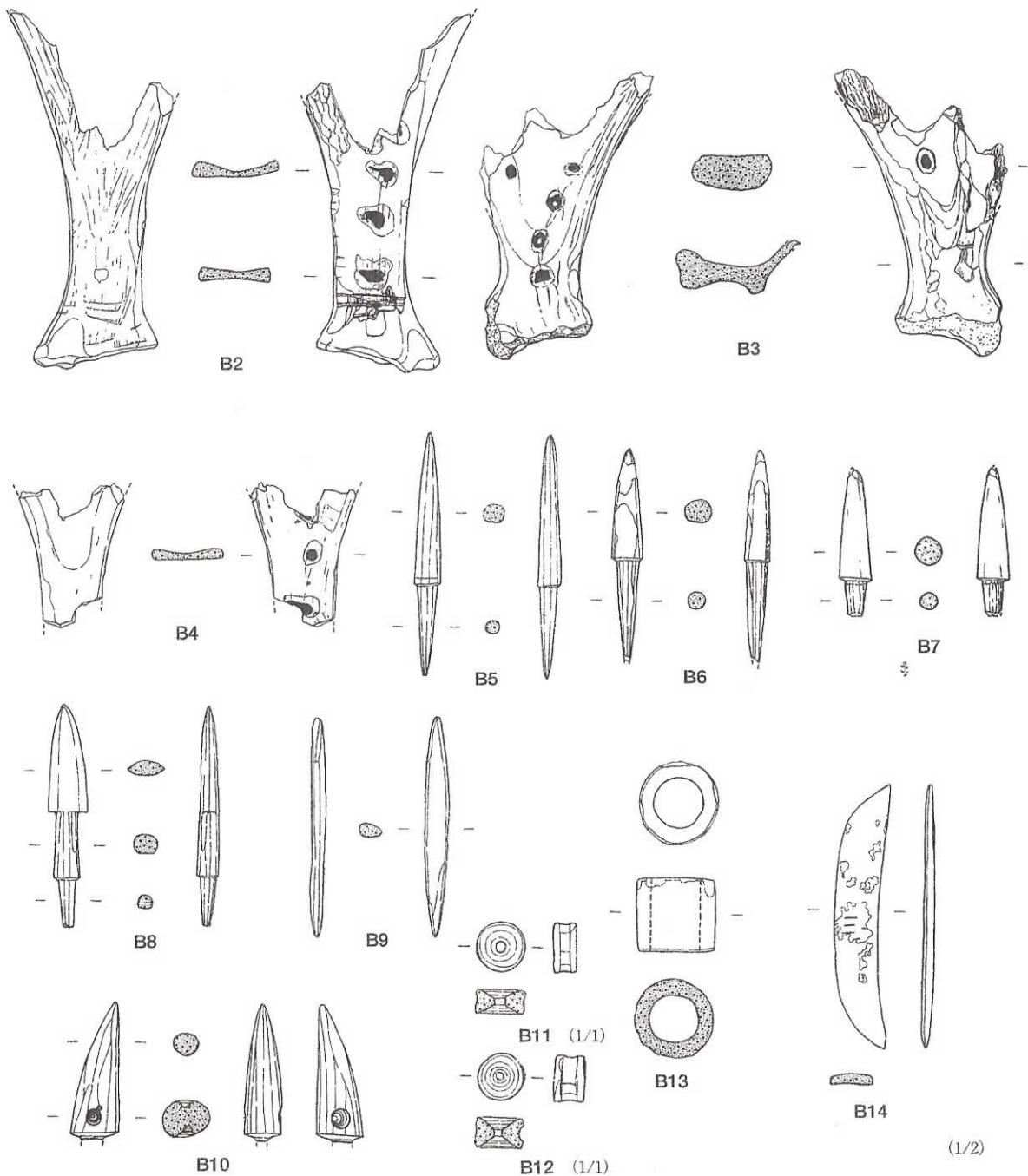
岡山県教育委員会, 2001 『下庄遺跡 上東遺跡』
岡山県埋蔵文化財センター調査報告 157 (第1分冊)



- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 宮山遺跡 | 2. 酒津遺跡 |
| 3. 前山遺跡 | 4. 菅生小学校裏山遺跡 |
| 5. 津寺一軒風遺跡 | 6. 足守川矢部南向遺跡 |
| 7. 幡笈弥生墳丘墓 | 8. 上東遺跡 |
| 9. 吉野口遺跡 | 10. 鹿田遺跡 |
| 11. 百間川原尾島遺跡 | 12. 百間川今谷遺跡 |
| 13. 津島遺跡 | 14. 高塚遺跡 |
| 15. 津寺遺跡 | 16. 立田向山遺跡 |
| 17. 矢部 | 18. 原遺跡 |
| 19. 中山遺跡 | 20. 本郷遺跡 |



撥形文関連資料出土例および遺跡位置図(白ヌキは出土地不正確)



掲載番号	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚		
B2	ト骨	鹿の肩甲骨	109.0	50.5	28.0	15.8	中心部が黒く周囲は茶褐色になっている 4カ所焼灼痕 ケズリ
B3	ト骨	鹿の肩甲骨	87.0	52.5	22.0	23.2	外測線に1・内測線に5個の焼灼痕
B4	ト骨	鹿の肩甲骨	(44.5)	(32.0)	(4.5)	2.8	全体をきれいに磨いている 3カ所焼灼痕
B11	輪鼓状耳飾	エイ類相体	7.5	15.0		1.0	
B12	輪鼓状耳飾	エイ類相体	9.5	14.5		1.0	
B13	管玉	骨	22.7	24.0		11.7	内径15.0×15.5
B14	ヘラ	鹿の骨(角幹部)	81.0	16.0	3.5	4.8	

掲載番号	器種	材質	法量(mm)						重量(g)	特徴・備考
			身長	身最大幅	身最大厚	莖長	莖最大幅	莖最大厚		
B5	骨鏃	鹿の角	78.0	8.1	7.0	27.8	6.0	5.0	3.0	莖の部分が露出ミガキが及んでいない
B6	骨鏃	鹿の角	68.0	9.2	8.0	(40.2)	6.5	6.5	3.5	莖の部分が露出ミガキが及んでいない 基部部分あり
B7	骨鏃	鹿の角	(46.0)	9.7	9.5	(11.0)	6.0	6.0		両端一部欠損
B8	骨鏃	鹿の角	67.5	12.5	6.3	(14.2)	5.0	5.0	4.0	身体二枚 莖が露出ミガキが及んでいないか大量
B9	骨鏃	鹿の角	67.0	7.5	4.2				2.2	基部なし
B10	骨鏃	鹿の角	45.0	14.0	6.0	(1.0)	7.0	4.8	5.7	2カ所穿孔 (未貫通4.3×4.3×5.5×6.0)

骨角製品はB2～B14で、B2～B4はト骨である。B2は肩甲棘部分をその基底部から削り取り、肩甲骨の全体を関節部を別にし、平らな板状のものに仕上げている。このために頸部には、深い切り込み、および後縁後にはカット面が顕著に認められる。灼痕は、肩甲棘の削り後に縦に並ぶように4カ所認められる。灼痕の中心部が黒く、周辺は茶褐色に変色している。肩甲頸に近い灼痕は、内側の面

には、剝離した部分が認められる。B3は肩甲棘は、低く削られている。灼痕は外側の棘上窩に1カ所と内側に4カ所が認められる。B4は肩甲棘を削り取るとともに内側も平坦に削られ、平坦な板状に仕上げられている。灼痕は肩甲棘に沿うように3カ所認められる。

B5～B9は骨鏃で、B9を除き有茎式である。B5とB6は円錐状の身で長めの茎を持ち、B7は短い茎となる。B8は茎が2段となり、B9は凸基状の形態を呈する。

B10は鏃と想定したが、両側からの穿孔は未貫通で終わっている。茎はこの穿孔途中で欠損したものであると思われることから、鏃以外の用途が考えられる。

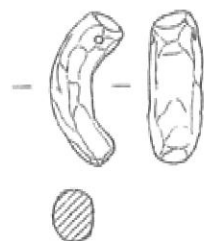
B11とB12はエイ類相体の輪鼓状耳飾りで、B13は管玉状の骨製品である。

B14は、鹿角の角幹部を用いた丁寧な作られたヘラである。

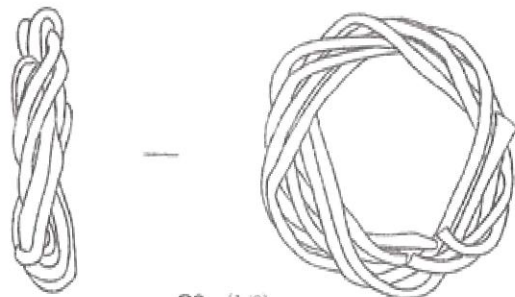
骨角製品の出土層は第7図の第18層からの出土がB9、最下層および基盤層に接して認められたのはB3・4・6・8・10であり、その他はその間の層から検出されている。

O2は土製勾玉である。O3は腕輪と考えられるものである。樹種は分析に出したが、保存状態が悪く観察が困難で、散孔材の同定にとどまっている。一本の太さは0.35cmを測るもので、3本を元として輪にしている。この出土層は、第7図の第18層からである。

M1は鉄斧で、袋部には木質が遺存している。袋部分の接合は、現状では認められていない。M2は貨泉である。出土層はM1が最下層から、M2は第26図に示した位置で第11図の第43層の暗灰色粗砂から検出されている。



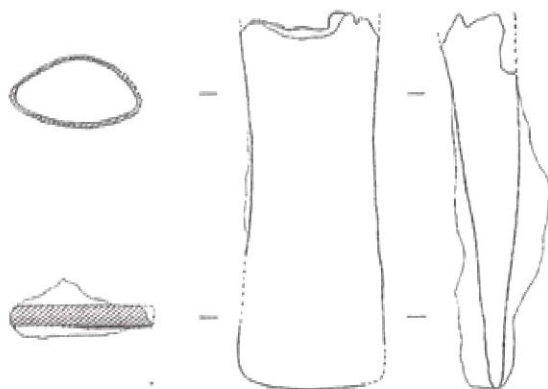
O2 (1/2)



O3 (1/2)

掲載番号	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚		
O2	勾玉(土製品)		41.0	12.0	14.0	8.6	

掲載番号	器種	法量(cm)			器種	備考
		長さ	幅・径	厚み		
O3	腕輪?	7.5	6.7	2.1(茎の太さ0.25~0.40)		茎を3本絡ませている



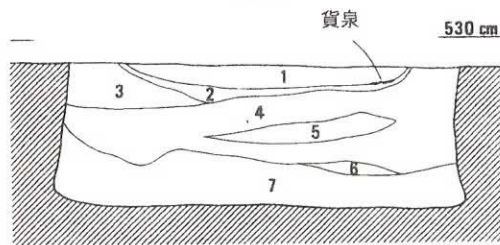
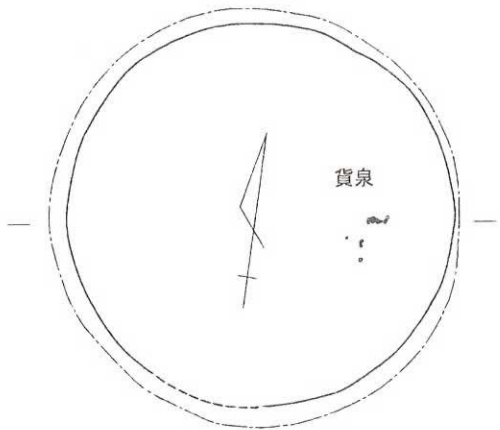
M1 (1/2)



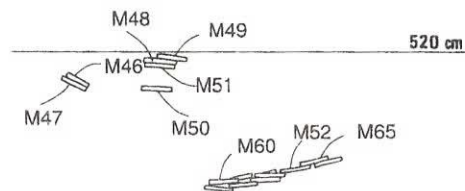
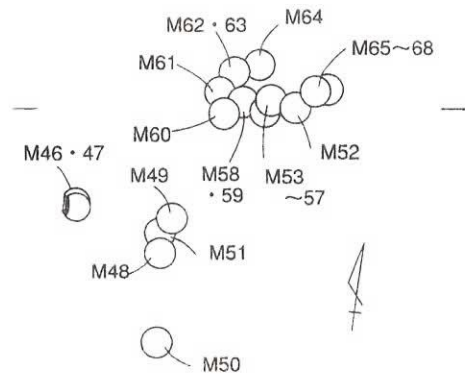
M2 (1/1)

掲載番号	器種	材質	法量(mm)			重量(g)	特徴・備考
			最大長	最大幅	最大厚		
M1	鉄斧	鉄	(102.2)	(38.3)	(19.3)	66.3	
M2	貨泉	銅	22.91		1.55	2.5	貨泉

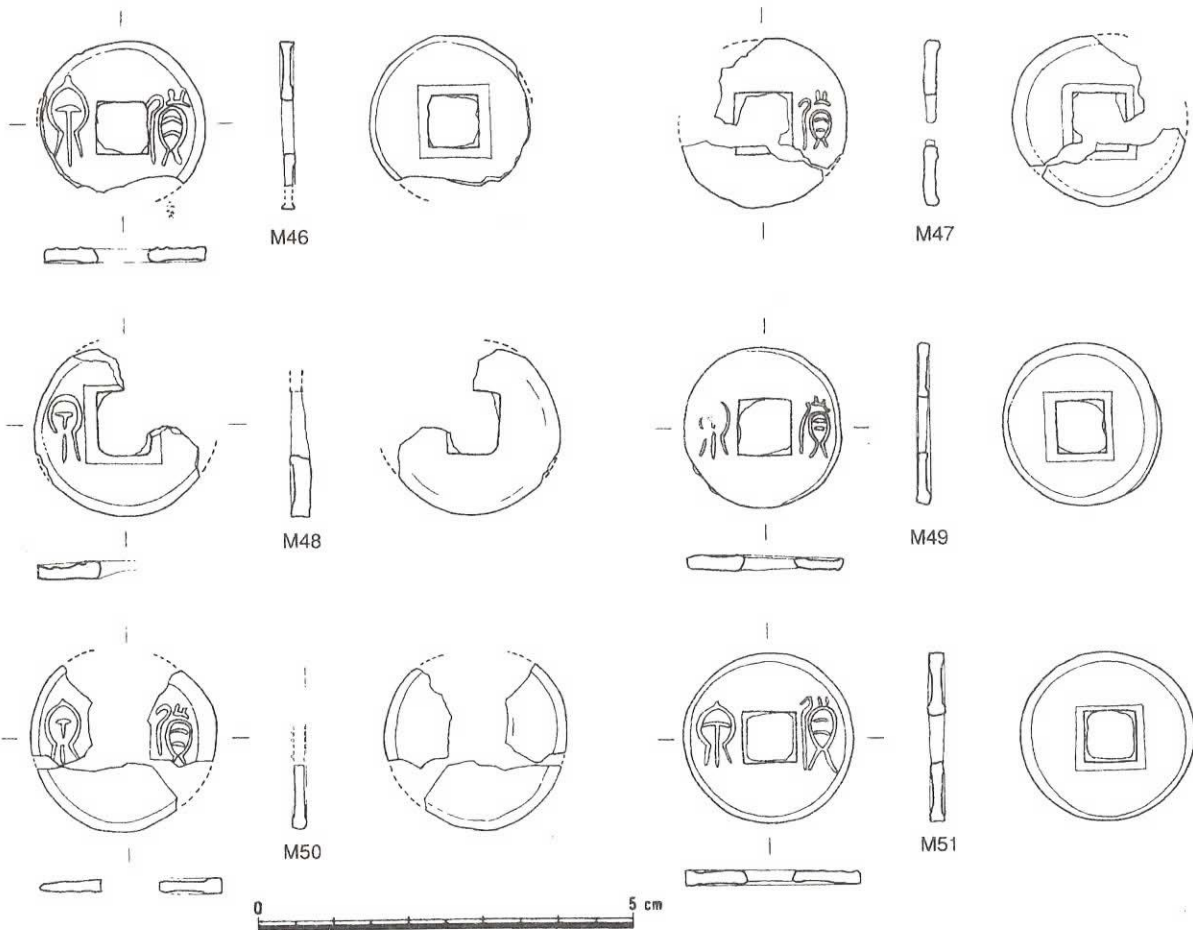
袋状土壙18



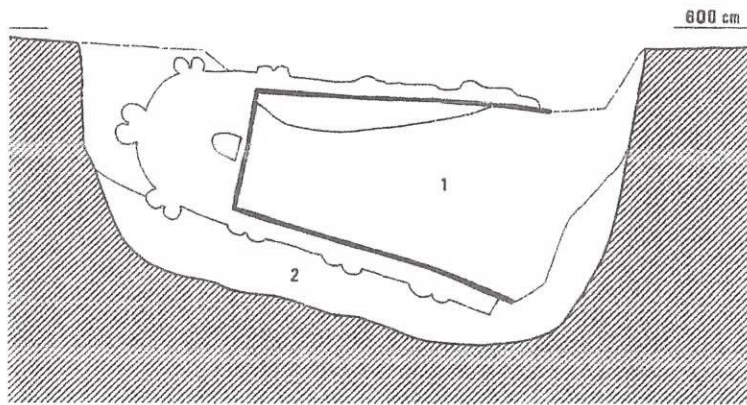
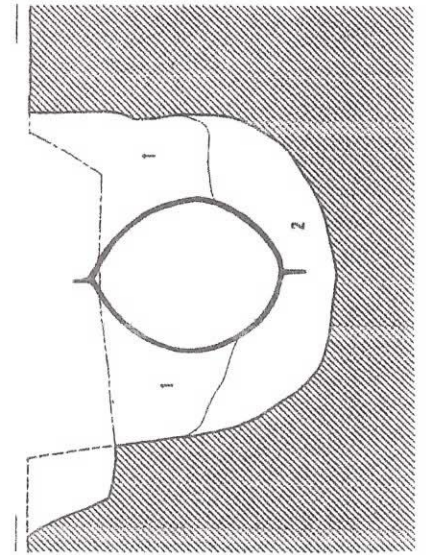
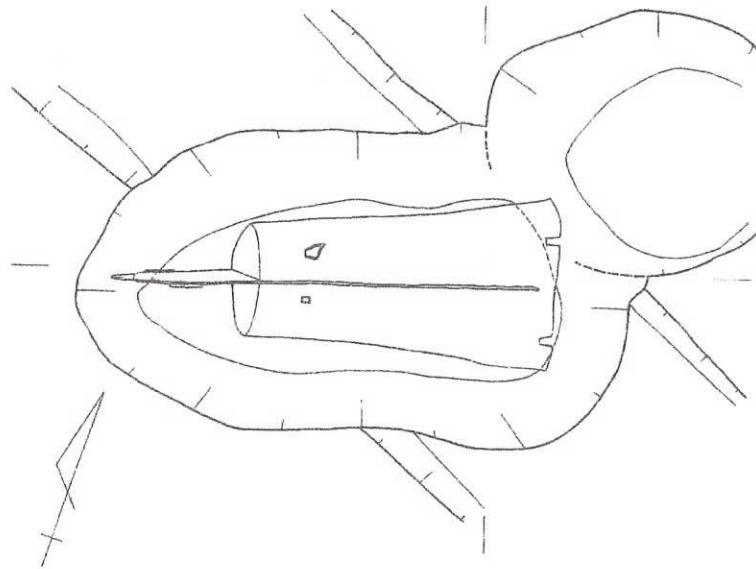
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 黄褐灰色砂質土 (炭粒含) | 5 黄色砂質土 |
| 2 灰+燒土 | 6 黄色粘質微砂 |
| 3 淡褐灰色砂質土 (炭粒含) | 7 黄色砂質土 (炭粒含) |
| 4 黄灰褐色砂質土 (炭粒含) | |



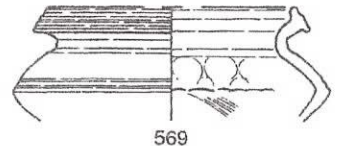
袋状土壙18貨泉出土狀況 (略图) (1/5)



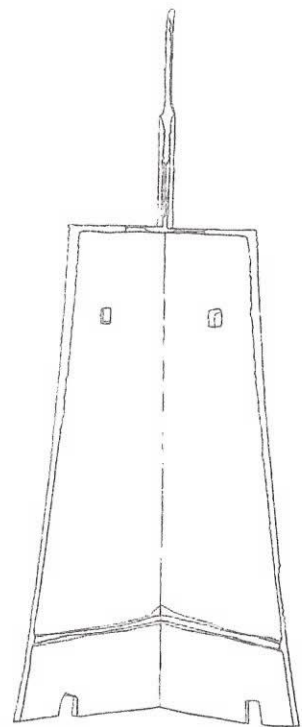
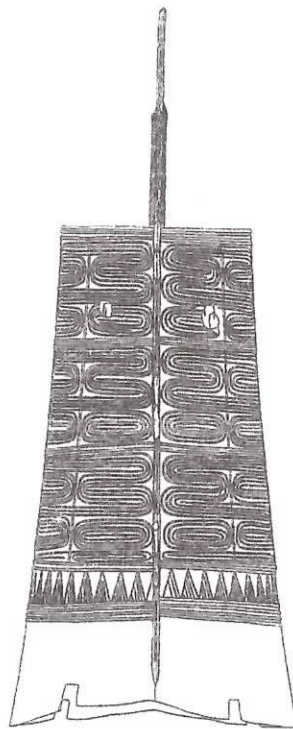
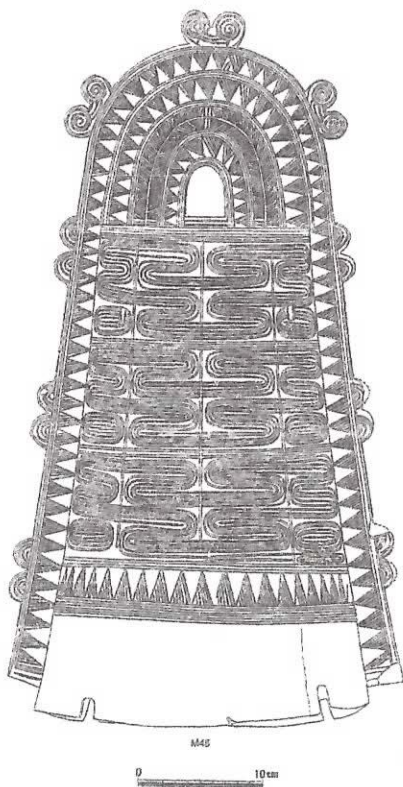
袋状土壙18出土貨泉 (1/1)



- 1 暗褐色 (10Y3/3) 砂質土
- 2 にぶい黄褐色 (10Y4/3) 粘性砂質土

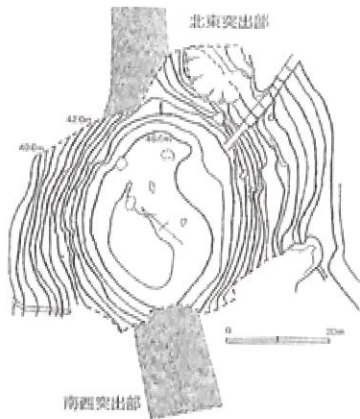


銅鐸埋納坑 (1/10)・出土遺物 (1/4)

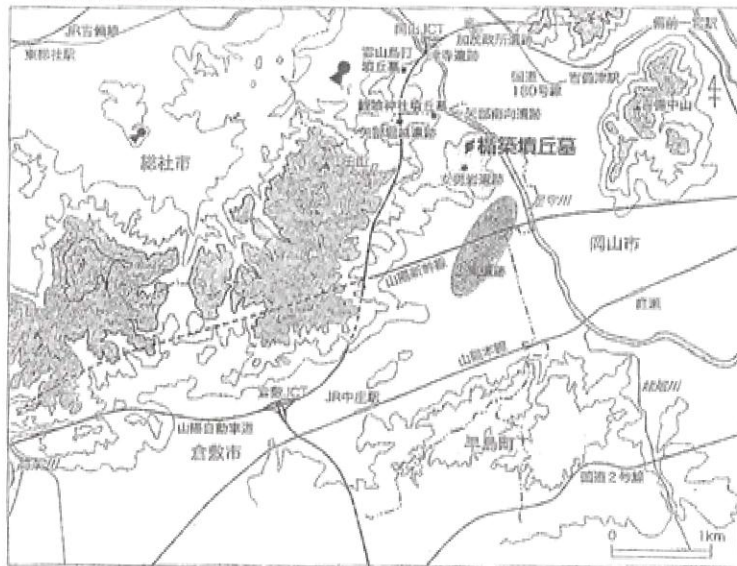


高塚銅鐸B面および側面

楯築墳丘墓の位置と周辺遺跡図



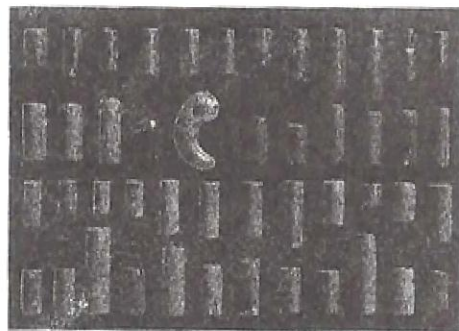
楯築墳丘墓測量図
(1992『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会 P11図7を一部改変)



出雲・西谷に眠る王のライバル
吉備の王墓・楯築墳丘墓



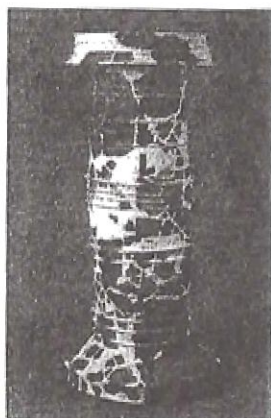
楯築墳丘墓の中心埋葬
手前側が頭であり、南東向きになる。
木棺床の広がりや木棺の痕跡を示している。



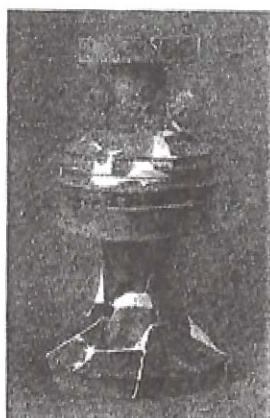
中心埋葬施設から出土した
碧玉製管玉、瑪瑙製漆玉、
硬玉製勾玉／弥生後期後葉

吉備の穴海を望む王墓

楯築墳丘墓は日本最大の弥生墳丘墓である。形は円形の主墳丘の北東と南西に突出部が付属しており、全長は78・5メートル以上と推定される。墳頂部には5個以上の巨大な立石があるほか、墳丘斜面にも二重に列石が施されていた。また、楯築神社の御神体として祭られている通称「亀石」と称される弧楯石は他に例のない異形の造形物として知られている。



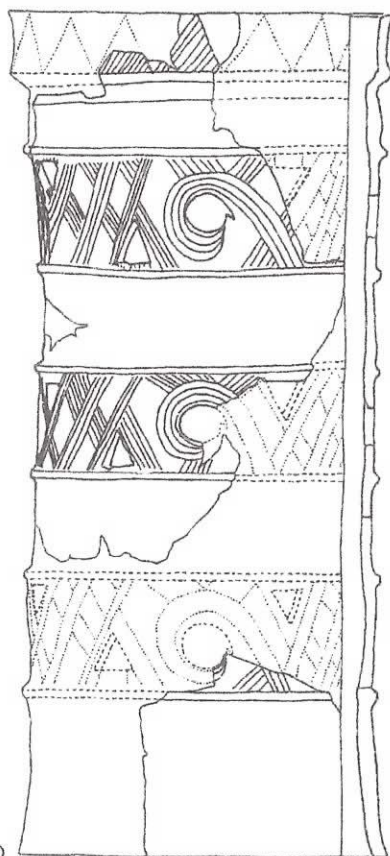
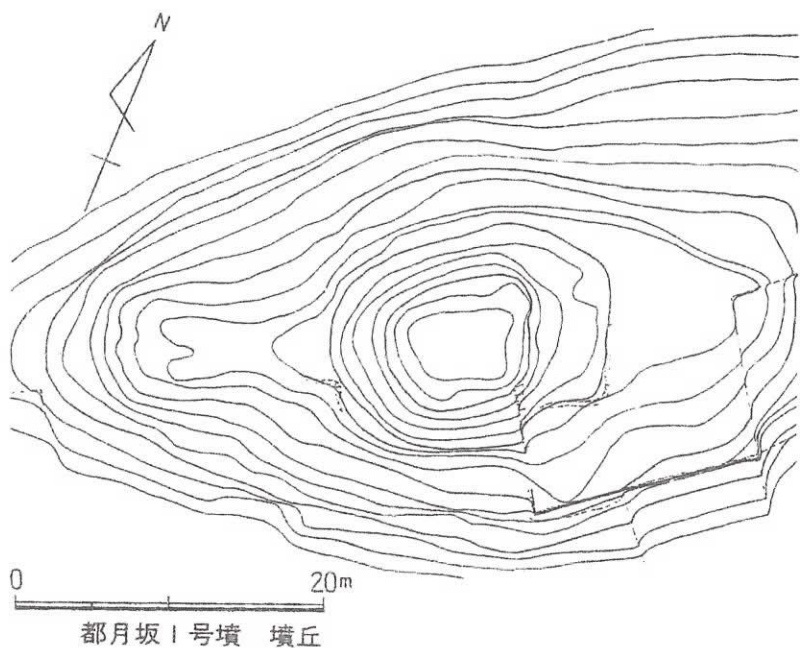
特殊器台(立成器台)／弥生後期後葉
特殊器台、特殊器は楯築墳丘墓のものが最古で、かつ完成度も高い。特殊土器を用いた個別祭祀の手順や方法がこの墳丘墓で完成されたものである。



特殊器台と装飾器台／弥生後期後葉

墳頂部の中心埋葬施設では上縁で長さ9メートル、幅6・2メートル、深さ2・1メートルの墓穴が掘られ、内部には木棺と箱形木棺が納められていた。木棺内には総重量32キログラムの水銀朱をはじめ、各種の玉類、鉄剣が副葬されている。楯築墳丘墓は規模はもちろん、墓で行う儀礼のルールを完成し、西日本各地の墳墓祭祀に大きな影響を与えた画期的な弥生王墓である。

都月坂一号墳 岡山市津島本町の都月坂の尾根鞍部に築造された全長三三メートルの前方後方墳である。一九五八・五九および六四年に水内昌康・近藤義郎らによる測量と発掘が行なわれた。前方部は低く狭いが、くびれ部はいっそう狭く、また前面の裾はやや開く。後方部頂上中央に、主軸と直角の位置に営まれた長さ約四メートルの竪穴式石室を発見したが、盗掘によってすでに大きく破壊され、副葬品としてわずかに鉄剣一、鉄斧一、碧玉製管玉一が残存するにすぎなかった。後方部の両側に列石が残っていたほか、都月型特殊器台形埴輪の破片と底部穿孔の壺形埴輪片が、墳丘斜面と裾部の各所で発見された。都月型特殊器台形埴輪は全体の形態は円筒埴輪に類するが、特殊器台形土器以来の口縁受部を痕跡的にとどめ、またいっそう形式化した文様帯をもつ。その文様は数条からなる斜線文の交錯と蕨手文わらびてもんの組み合わせから成り、その間の透し孔は伝統的な巴形と三角形である。壺形埴輪は上向きの筒状頸部に外反する二重口縁が付き、底はことごとく焼成前の穿孔である。

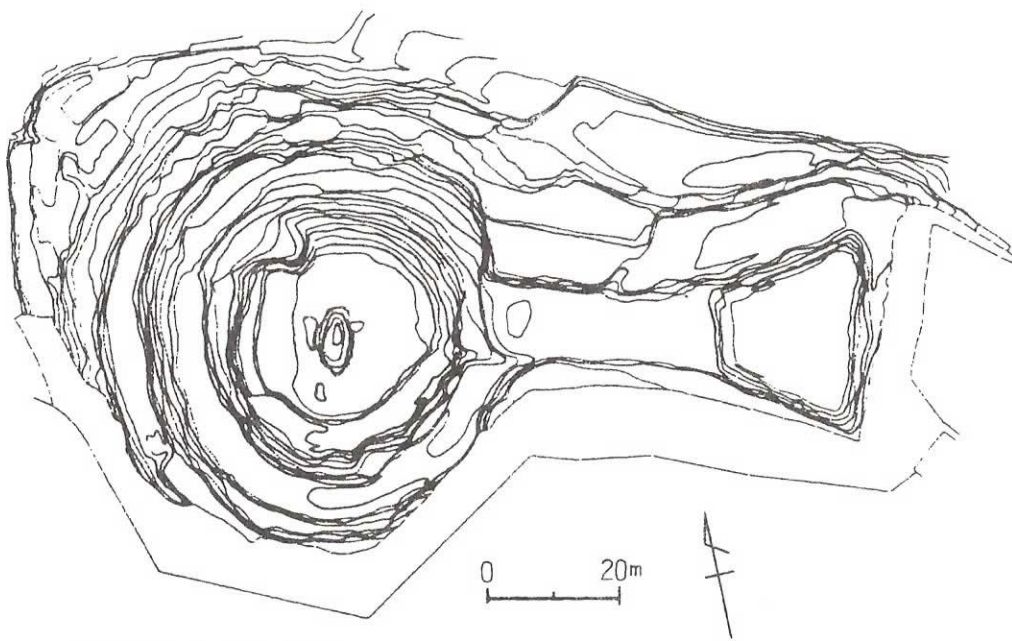


都月坂1号墳出土の
特殊器台形埴輪

近藤義郎、1990『吉備考古点描』河出書房新社

吉備にいち早く築かれた前方後円墳がどのくらいあったかについては、今はなお十分に追究されていないため、対大和勢力との間の政治地図は十分な形で描くことはできない。しかし、特殊器台形埴輪や舶載三角縁神獸鏡の副葬、あるいは石室の構造や墳丘の形状などから、最古型式に属するに違いないと指摘できる古墳はいくつかある。そのうち最大のもは、吉備中山にそびえる中山茶臼山古墳

と岡山市東方に横たわる浦間茶臼山古墳である。一方は一際高い山頂に、片方は低い丘陵を占拠している。墳丘全長一〇〇メートル以上の吉備の古墳のうち、最古型式に指摘できるのはこの二基である。

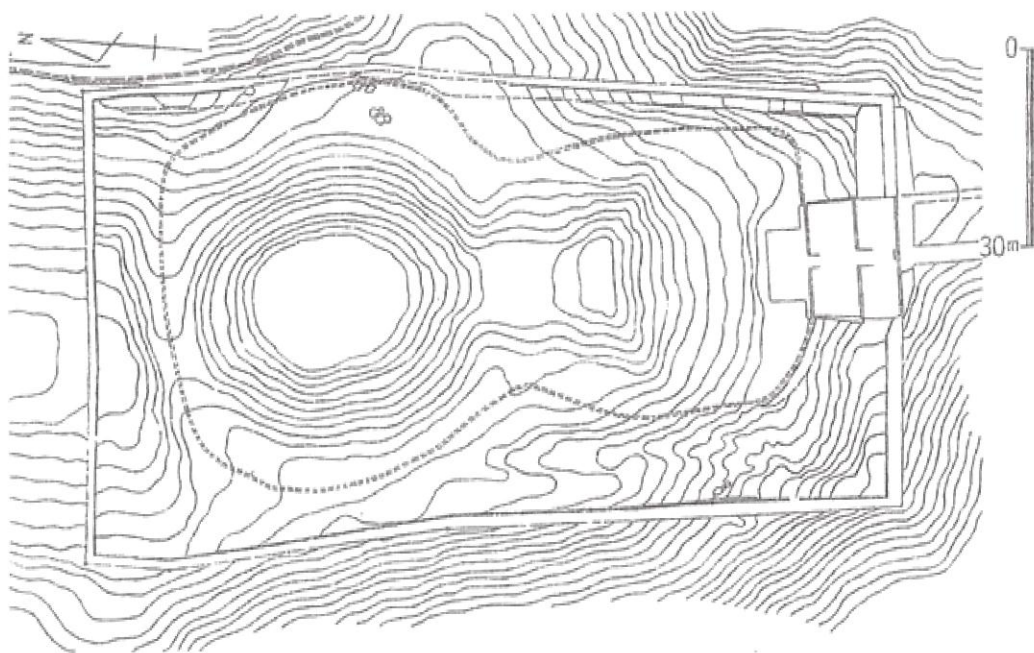


浦間茶臼山古墳 墳丘

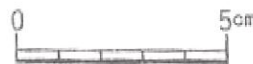
浦間茶臼山古墳 岡山市浦間の低丘陵上に、丘陵を加工盛土して築造された前方後円墳で、前方部が奈良県桜井市箸墓古墳に似て、前端に向かって撥形はらに開く型式である。また、墳丘から採集された特殊器台形埴輪が都月型であることも、本古墳の古さを物語る。全長一四〇メートル、後円部径約八〇メートル、高さ約一四メートル、前方部前面の幅約六〇メートルをはかる。墳丘は三段築成で、葺石がふかれている。後円部のほぼ中心に大きな穴があり、盗掘があったことを示している。一九七〇年に行なわれた宅地造成によって墳丘の南側の裾部と前方部の下端が破壊された。

一九八八年後円部中央について発掘が行なわれ、内法の長さ約七メートル、幅一・二〇・九メートルの竪穴式石室が発見された。石室内は盗掘の痕が歴然としていたが、中国製獸帯鏡片、銅鏃、鉄鏃、鉄剣などが見出された。

中山茶臼山古墳 岡山市吉備津字尾上の山頂に原地形を利用して築かれた前方後円墳で、全長約一二メートル、後円部約八メートル、後円部の高さ約一二メートルをはかる。後世の変形が部分的にみられる。後円部の背後には、山の稜線を大きく断ち切った溝がある。山頂に立地するため、周囲からの仰望はすこぶるよい。西方約三、四キロほどの眼下に楯築・鯉喰・雲山鳥打などの弥生墳丘墓を見る。へ大古備津彦命の墓」という伝承があり、いま宮内庁の管理下にある。山麓の吉備津神社宝物館にこの古墳発見と伝える特殊器台形埴輪二片が収蔵されているが、そのほか伝として某所に保存される同種の埴輪片もあわせ見ると、特殊器台形埴輪でも最後出の型式であろう。



中山茶臼山古墳 墳丘



伝中山茶臼山古墳出土特殊器台形埴輪片の拓影(上)、
浦間茶臼山古墳出土特殊器台形埴輪片の拓影(下)

大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告

陵墓調査室

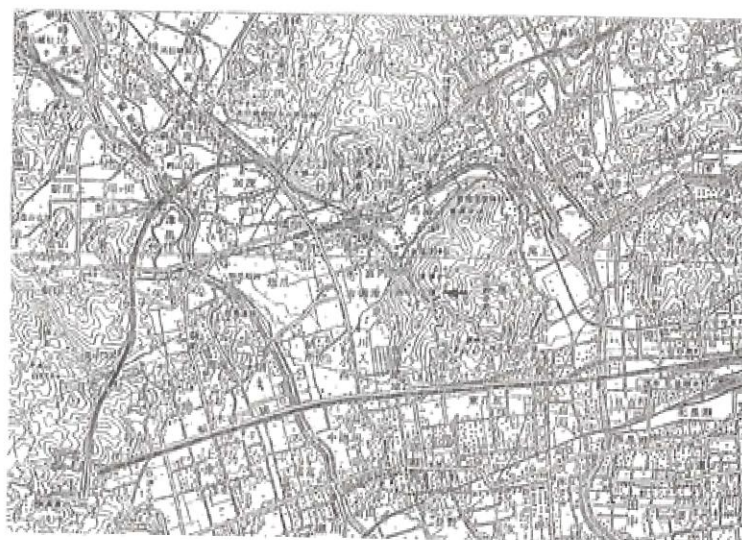
はじめに

大吉備津彦命墓は、現在の岡山県岡山市尾上・吉備津の地境、古代における備前・備中の国境が通る吉備中山の山中に、その境界をまたがって所在する。吉備中山の山塊には大きくふたつの山頂があるが、南寄りの標高約162mの山頂から南に向かって緩やかに下る尾根上に位置している。本墓の標高は、おおむね145m前後である。樹木の繁茂により墳丘からの眺望はないが、やや南に下った場所からは南を中心に展望が開ける。現在、南は平野が広がり、庭瀬を経て児島方面を臨むことができるが、古くは山裾付近まで海の迫っていたことが知られている。また、吉備中山西方には足守川が流れている。

岡山県内には重要な遺跡が点在する。本墓の位置する岡山市西部から総社市東部一帯に限ってみても注目すべき遺跡が多い。吉備中山周辺をみると、南に接する庚申山から派生する尾根上には全長約135mを測る前方後円墳の尾上車山古墳、北東の平野部に下ったところには辛川小丸山古墳がある。また、山裾北西には備前一宮である吉備津神社、山裾北東には備前一宮である吉備津彦神社がある（第1図）。

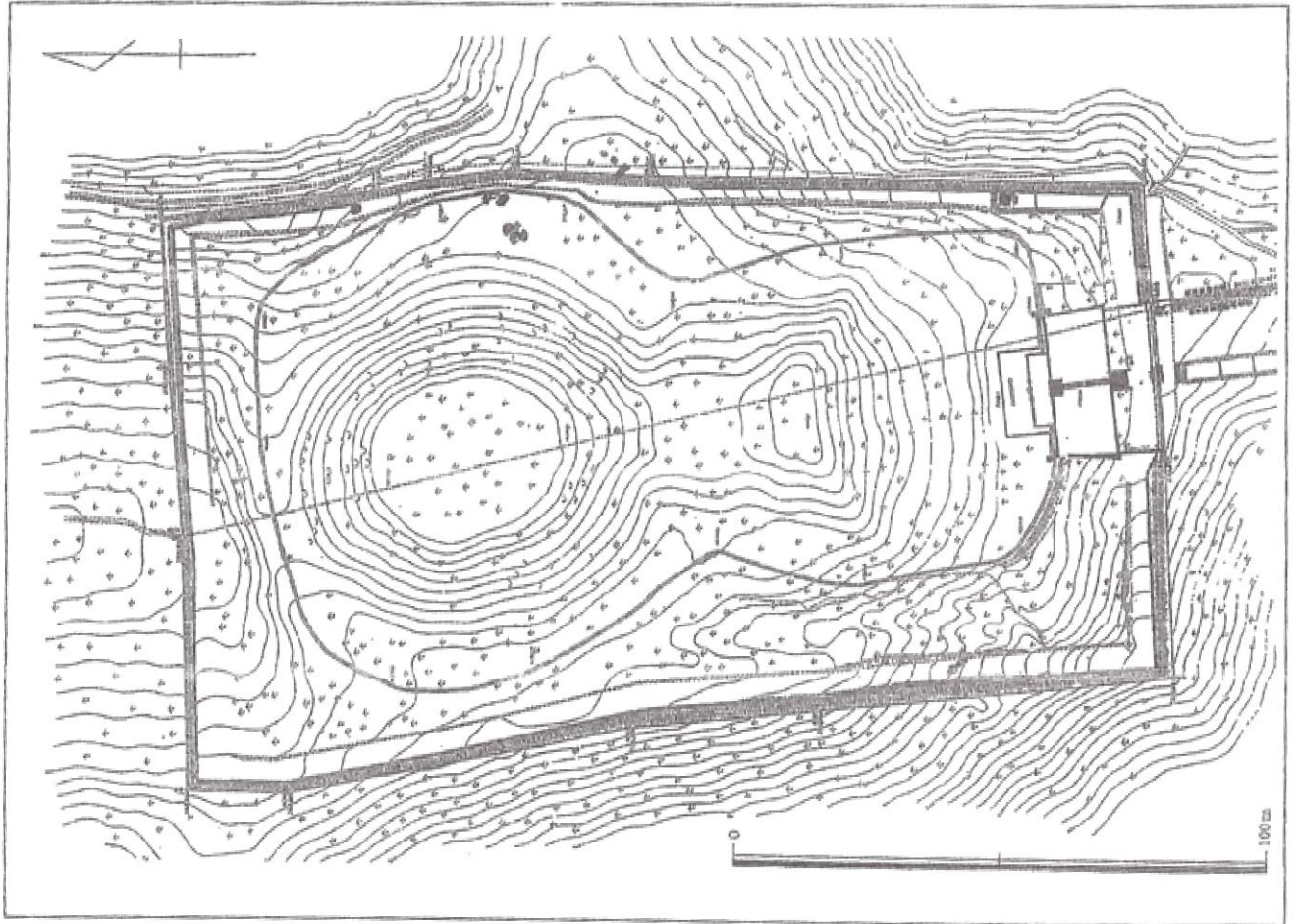
もう少し広く見渡せば、吉備中山西方に多くの遺跡が知られている。縄文時代は矢部や西尾で貝塚が確認されている。弥生時代では、加茂・矢部南向、上東、岩倉、川入などの各遺跡をはじめ、王墓山丘陵では楯築、女男岩、辻山田などの墳墓群が著名である。さらに西方尾根上には、矢部大塚古墳がある。これらの周辺には古代寺院跡も確認されている。また、総社市境と接する新庄下一帯には、造山古墳を中心とする幾つかの古墳が展開しており、その中には、当部で所蔵する馬形帯鉤を出土した榊山古墳や、直弧文を施した石障で知られる千足古墳なども含まれている。

本墓は、明治7年に、当時の備前国津高郡尾上村備中国賀陽郡宮内村境界字茶臼山の地に治定された。茶臼山が墳丘を指すと考えられ、現在の遺跡名も中山茶臼山古墳である。また、過去には都月型に類する特殊器台形埴輪が採集されることもあったようである⁽¹⁾。しかし、断片的な情報にとどまっており、特に墳丘に関しては昭和4年作成の陵墓地形図があるのみであった。また、当部による調査としては、昭和55年に鳥居改築等の工事に伴い立会調査を実施しており、弥生土器等が出土しているが、墳丘から離れた場所でもあったため、本墓に直接伴うような遺物はなかった⁽²⁾。

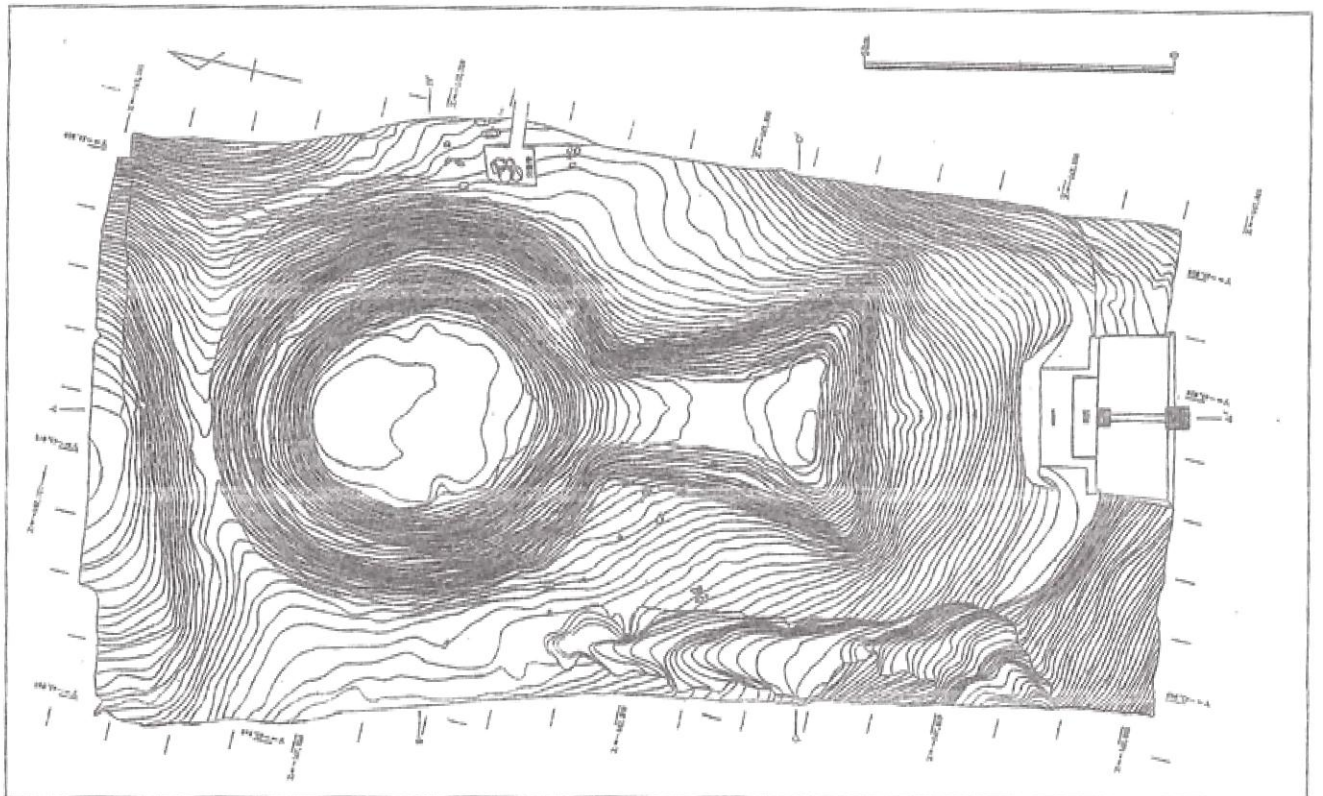


国土地理院1/50,000地形図「岡山北部」「岡山南部」を使用
矢印部分「茶臼山古墳」が大吉備津彦命墓

大吉備津彦命墓 位置図（左：縮尺不同 右：1/100,000）

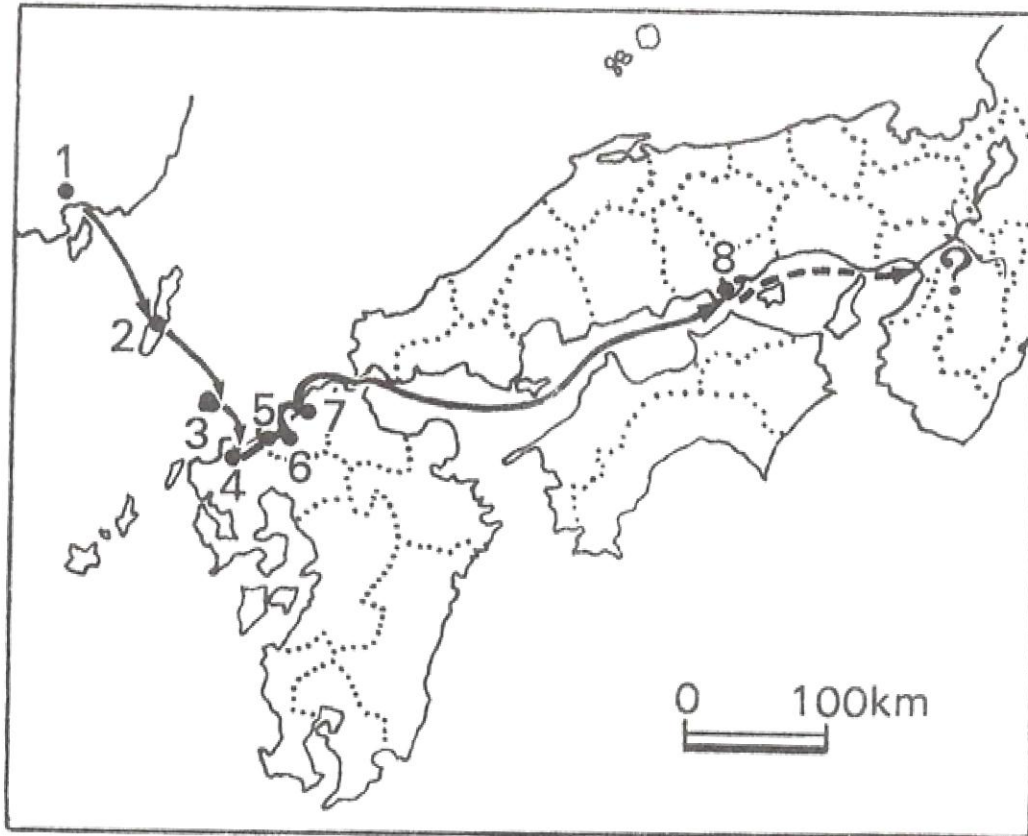


大吉備津彦命墓陵墓地形図（昭和4年測量）

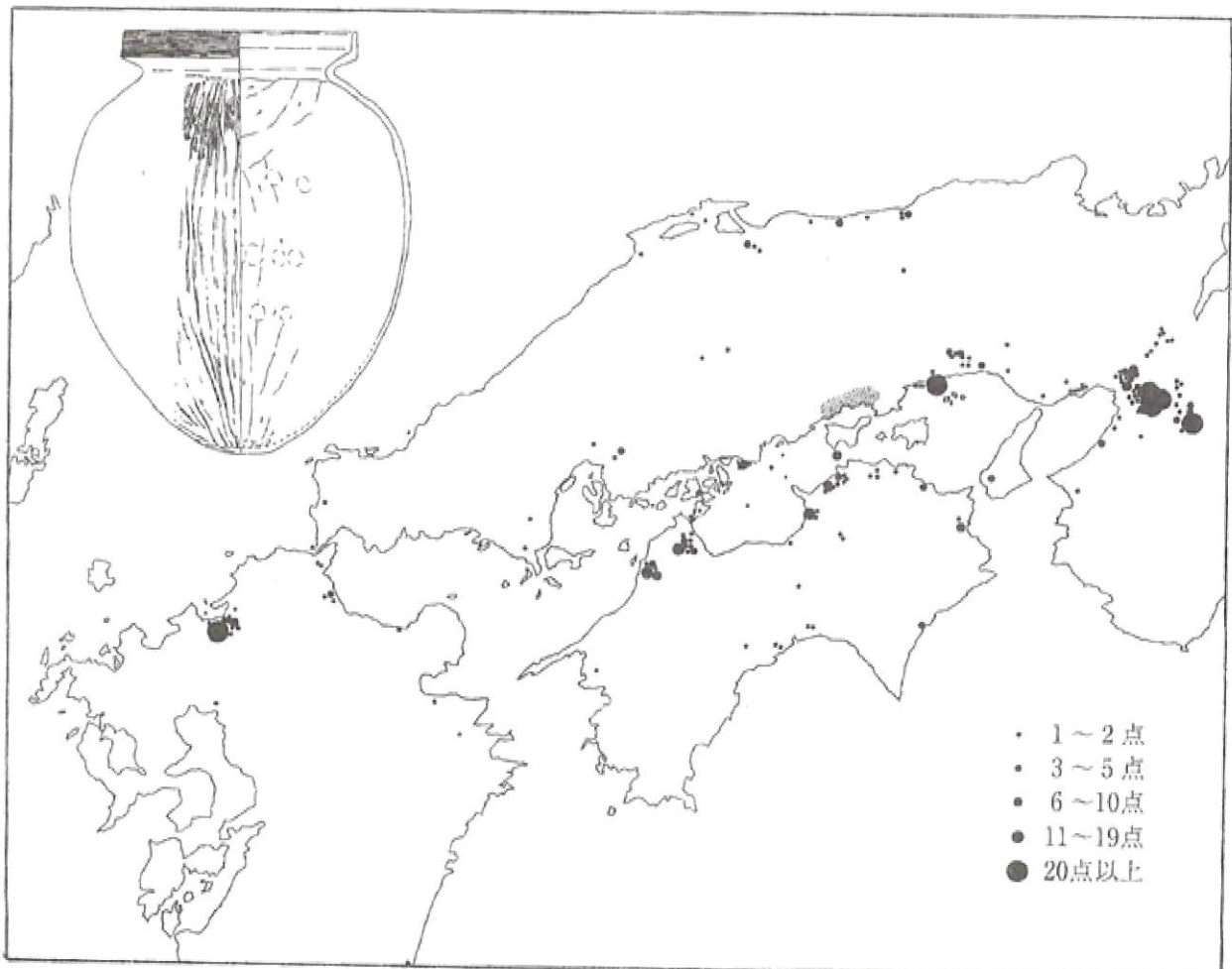


大吉備津彦命墓外形測量図（平成20年測量）

陵墓調査室，2009「大吉備津彦命墓の墳丘外形調査報告」『豊陵部紀要』
第61号〔陵墓篇〕



邪馬台国への道 (1. 狗邪韓国, 2. 対馬国
3. 一支国, 4. 末盧国, 5. 伊都国, 6. 奴国, 7.
不弥国, 8. 投馬国)



吉備形甕と吉備形甕の分布 吉備形甕：福岡県比恵遺跡出土

吹山 諄, 2007 「古墳時代初期の瀬戸内海儿一トをめぐる土器と交流」『考古学研究』第54巻第3号



畿内における古備形竪穴の分布



畿内における出現期古墳の分布